

<高等学校新学習指導要領告示>

■理数科目は平成24年度から実施

2009年3月、文部科学省は全面改訂した高等学校の学習指導要領を告示した。平成25年度入学生から新学習指導要領を学年進行で実施するが、数学、理科及び専門教科（理数）は、平成24年度入学生から学年進行で実施する。

■高等学校「数学科」改訂のポイント

(1) 現行の7科目構成を6科目構成に再編

具体的事象への活用を重視した「数学活用」を新設し、現行の「数学基礎」の内容はそれに移行・吸収される。現行の「数学C」の内容は、主として「数学A」、「数学B」に移行される。

新	現行
数学Ⅰ (3) ○	数学基礎 (2) } ○
数学Ⅱ (4)	数学Ⅰ (3)
数学Ⅲ (5)	数学Ⅱ (4)
数学A (2)	数学Ⅲ (3)
数学B (2)	数学A (2)
数学活用 (2)	数学B (2)
	数学C (2)

※ ()内は標準単位数
○は必履修科目

(2) 必履修科目の変更

現行では、「数学Ⅰ」または「数学基礎」が選択必履修科目となっているが、新学習指導要領では「数学Ⅰ」が共通必履修科目となる。

(3) おもな改善事項

- 「数学的活動」を一層重視するとともに、「数学Ⅰ」及び「数学A」に〔課題学習〕を位置付ける。
- 中学校との接続や内容の系統性を一層重視した内容構成とし、スパイラル的に指導できるようにする。
- 統計に関する内容を充実させ、「数学Ⅰ」の内容には「データの分析」（データの散らばりや相関）が加わる。

<点字の父・ブライユ生誕200年>

今年、点字の発明者、フランス人のルイ・ブライユ（1809～1852）が生まれて200年になる。「ブライユ点字」は現在、世界中で用いられている。日本では明治中期、石川倉次（1859～1944）によって「日本点字」に作り直され、広く用いられるようになった。

■「ブライユ点字」の誕生

ルイ・ブライユは、パリ東郊40kmのクーブレ村の馬具職人の家に生まれた。3歳のとき、不慮の事故で片眼を失明し、その後、感染症のため、5歳で両眼の光を失った。

10歳のとき、世界初の盲学校であるパリ国立盲学校に入学した。あるとき陸軍大尉シャルル・バルビエが盲学校を訪れ、彼が考案した、フランス語の音を12の点と線の組み合わせで表現した暗号の一種「ソノグラフィ」を紹介した。ブライユは強い興味を示し、盲人が解読しやすいように点の数を減らし、音でなく文字そのものを表すように工夫を重ねた。そして1824年、15歳のときに6点からなる点字を考案した。現在の「ブライユ点字」の原型だった。

彼の生家は現在、「ルイ・ブライユ博物館」として保存されている。中庭にある大理石の板にはこう記されている。

「彼は見ることでできない人々に知識の扉を開いた」

■「ブライユ点字」の特長

シャルル・バルビエが考案した12点点字は、1文字を判別するのに、指を縦方向にも動かす必要があった。これに対して、ブライユの6点点字は、指先を左から右へ動かすだけで判別できる。わずか6つの点で63通りの組み合わせができ、仮名も数字もアルファベットも表せる。「ブライユ点字」は、少ない材料で多くのことを表現できることを示し、「したたかな創造力」を秘めているといえる。

(参考資料：毎日新聞2009.1.4)